子どもたちが伝える 火の用心



火災が発生しやすくなる季節を迎えるにあたり、市消防本部ではさまざまな火災予防啓発を実施しています。中でも、子どもたちの防火意識を育て、家庭や地域へ、その思いを広げる取り組みに力を入れています。一人ひとりの心がけで、地域の大切な命と暮らしを火災から守りましょう。

問い合わせ 菊川市消防本部（☎35-0119）

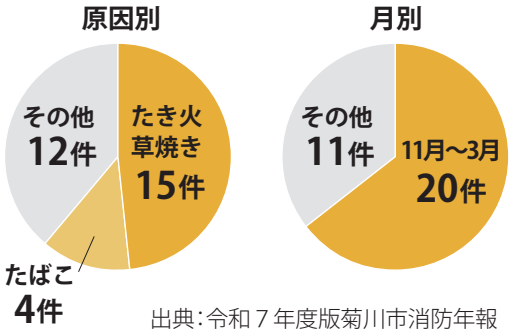
火災が増える季節

これからの季節は、降水量が少なく、空気が乾燥し、強風が吹くなど、火災が発生しやすい気象条件が重なります。

実際に、令和7年の菊川市の月別出火件数を見ると、年間31件のうち、およそ65％にあたる20件が11月から3月に発生しています。

また、原因別に見ると、たき火や草焼きなどのいわゆる野焼きが15件、たばこが4件となっており、火の取り扱いの不注意による火災が全体のおよそ61％を占めます。

菊川市の火災発生状況（令和７年）



出典：令和７年度版菊川市消防年報

火災を防ぐためには、一人ひとりが火の危険性を正しく理解し、日頃から注意することが大切です。火災が起こりやすい季節を迎える前に、今一度、家庭での火の取り扱いを見直してみませんか。一人ひとりの心がけが、地域の大切な命と暮らしを守ります。

子どもの頃から育てる防火意識

こうした状況を踏まえ、市消防本部ではさまざまな方法で火災予防の呼びかけを行っています。

中でも特に力を入れているのが、子どもの頃から防火意識を育てる取り組みです。子どもたちが火の怖さや火災予防の大切さを学ぶことで、その意識が家庭へ、そして地域全体へと広がっていくことを目指しています。

市内こども園などでは、花火教室や防火教室を開催し、火災予防を学ぶ機会の提供に努めています。また、秋の火災予防運動の際には、園児による街頭広報を実施し、火の用心を呼びかけています。その他、職場体験や消防署施設見学を通じて、消防の役割や火災予防の重要性を学ぶ活動も行っています。